

Read Japan Project 図書寄贈式
- 未来のための文化、文学 -

2024年3月25日

バルバドス博物館・史学会 (BMHS)



左から

カーク・ハンフリー国民エンパワーメント高齢者問題大臣

福嶋香代子駐バルバドス特命全権大使

アリサンドラ・カミンズBMHS館長

ハリエット・ピアスBMHS図書館司書

2024年3月25日、当館と協力の下、バルバドス博物館・史学会 (BMHS) は、BMHSワールド・ガーデン・シアターで、Read Japan Projectによる寄贈図書の引渡式を開催しました。Read Japan Projectは、日本理解を促進するために、日本財団の助成により、東京財団政策研究所が海外の図書館や研究関連施設等に日本に関する英語の図書を寄贈するプロジェクトです。

開会の辞において、アリサンドラ・カミンズBMHS館長は、図書寄贈を支えた福嶋大使に感謝の意を表し、寄贈図書がバルバドス人の想像力を広げることになると期待を示しました。カミンズ館長は、寄贈図書によりバルバドス人が日本人の文化的価値観に触れて、多種多様かつ魅力的な文化的表現の知識を養うことに期待を表明しました。

福嶋香代子大使は、BMHSカミンズ館長とスタッフに対し、大使館と協力し、日本に関する認識を高め、文化的な交流を積極的に促進していることに感謝の意を表しました。また、福嶋大使は、寄贈図書を通じた博物館による文化、歴史、教育の啓発活動が、バルバドス人に様々な視点から日本を知る機会となり、両国国民の相互理解が深まり、二国間関係の強化に貢献することを願っている旨、述べました。

ハリエット・ピアスBMHSシルストーン記念図書館司書は、Read Japan Projectによる106冊の書籍の寄贈に感謝の意を表し、この包括的なコレクションにより、バルバドス国民、特に日本に住み、働き、勉強したいと希望しているバルバドス人の日本理解が深まると述べました。ピアス司書は、寄贈された図書について、日本関連の歴史、政治、国際関係、社会、文化、文学、芸術などの多様な分野を含んでいると説明しました。



元JET参加者のマーティン・ボイス氏は、日本で外国語教師助手として働いた経験から、寄贈図書が日本に関してより広い知識を提供すると同時に、多様なコレクションにより、日本の価値観について有益な洞察を提供してくれるだろうと述べました。

日本とバルバドスの共通課題である高齢化社会において、「生きがい」(長寿のための目的、長く幸せに暮らす秘訣)を探求するためのパネルディスカッションが行われました。司会は、BMHSで教育・地域社会支援を担当するケイ・ホール女史が務めました。

最初に、空手七段のデビッド・クラーク大佐が、空手が沖縄発祥であり、武道の一種であるだけでなく、多くの科学的原理に基づいた学術的側面があると説明しました。クラーク大佐によると、バルバドスにおいて、空手は、70年代初頭にトリニダード・トバゴの西インド諸島大学セント・オーガスティン・キャンパスを通じて紹介されたそうです。クラーク大佐は、長寿のために心身を強める方法として、空手の練習で用いられる呼吸法を実演しました。コリーン・ウォルコット国家支援局長は、APICカーク・ハンフリー大臣招へい計画に随行する代表団の一員として日本を訪れたことを振り返りながら、国民の「生きがい」のために、社会福祉及び生活の質を向上させるためのサービスをどのように提供するかについて見解を述べました。マリリン・ライス・ポーエン・バルバドス退職者協会(BARP)総裁は、理性と目的を持って人生を生きる「生きがい」を、バルバドスの退職者にも提供していきたいと希望を語りました。



左から
ケイ・ホールBMHS教育・地域社会支援員
マリリン・ライス・ポーエン・バルバドス退職者協会(BARP)総裁
デビッド・クラークバルバドス国防軍大佐、空手7段師範
コリーン・ウォルコット国家支援局長



クラーク大佐による空手の実演

酒井紀久子当館一等書記官、バルバドス文学賞受賞者のウインストン・ファレル舞台監督、音楽家マーリー・カートン氏は寄贈本のなかから日本の古典文学「平家物語」を取り上げ、能の作品「鞍馬天狗」の物語を、仕舞、台詞及び篠笛・太鼓で演じました。



左から
酒井紀久子一等書記官
マーリー・カートン音楽家
ウインストン・ファレル舞台監督、文学賞受賞者

同寄贈式には、カーク・ハンフリー国民エンパワーメント・高齢者問題大臣、同省ジェフ・ウィルシャー次官、ポール・ブラックマン・バルバドス・コミュニティ・カレッジ言語センター所長及び同学図書館員等が同席しました。